レッドデータブックが語る 希少な動植物の今

曽根﨑　猛　史　・　勝　又　暢　之

現在開催中の「どうなっているの？埼玉県の動植物」では、最新の県版レッドデータブックの情報をもとに、県内に記録がある動植物の中から希少なもの、減少が著しいものを中心に紹介しています。ここでは今回の展示の見どころや、取り上げた動植物の今を解説します。

展示全景

「レッドデータブック？」

絶滅または絶滅のおそれがある動植物のリストがレッドリストです。それを本にしたのがレッドデータブック（以下RDB）で、絶滅の危険度をランク付けして、生息状況や減少原因などが解説されています。書店に並んだり広告が打たれることもないので馴染みはないと思いますが、RDBには全国版と都道府県版の他に様々な団体が出しているものがあります。

生きものを育む里山と絶滅した昆虫

埼玉県版のRDB刊行は、1996年の動物編にはじまりました。生物を取り巻く状況は刻々と変化するので、レッドリストは数年ごとに見直され、それに合わせRDBも改訂されます。最新版は2011年植物編で、動物編とともに３訂版です。

「埼玉の絶滅危惧種？」

最新のRDBには、[埼玉県に記録がある種／絶滅危惧種]として動物が[10,762／709種]、植物（藻類・菌類を含む）は[5,006／1,035種]と、多くの絶滅危惧種が選定されています。

東部の低地帯から奥秩父の山地まで、標高差2,500mにもおよぶ埼玉の環境は多様で、多くの種類の生きものを育みます。

荒川と利根川の合作である平野部は、全県の２／３を占めます。人が利用しやすい平野部の環境は、開発により大きく変化しており、水辺や河原、草原、雑木林の減少で生息地を失う生き物も増えています。

「希少植物の展示」

絶滅危惧植物。その姿を求めて深山に分け入り、決死の撮影を決行！展示室の写真はそんなふうに集められたというわけではありません。

もちろん企画展では、観察が非常に難しい「希少種」もとりあげています。『埼玉県の希少なラン』というコーナーで紹介しているラン科の植物など、ちょっと郊外に足を延ばしたくらいでは、なかなか観察できないものです。そのような植物種の、精巧なレプリカや生態写真、さく葉標本をご覧いただけるのも本企画展の見どころの１つです。

タマノカンアオイ（レプリカ）

それに加えて、おすすめする見どころは「はて？見たことがあるような」という植物たちです。本企画展では、現状では、十分に観察できる植物種も積極的にとりあげています。これは、そうした植物種こそが、レッドデータブックで多くのページを占めていることをお伝えしたいからです。